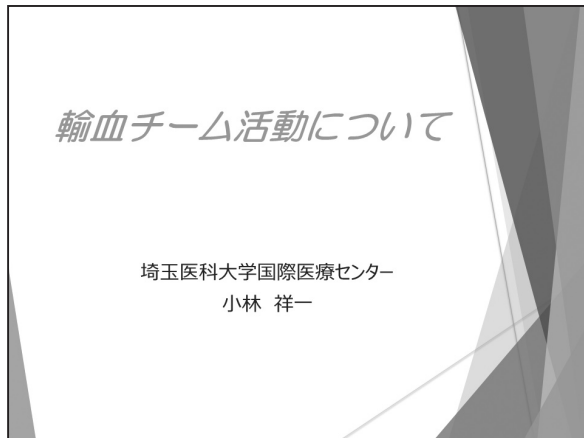


演題 2 輸血チーム活動

演者：小林 祥一 埼玉医科大学国際医療センター 救命救急センター

スライド 1



埼玉医科大学国際医療センターの小林と申します。

今日は、お話する機会をいただきまして誠にありがとうございます。

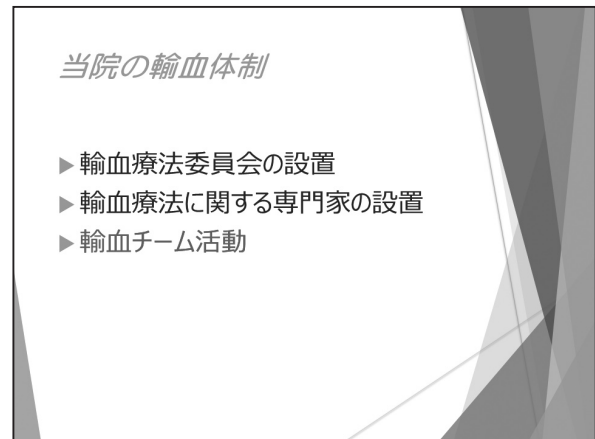
当院の輸血活動について、お話いたします。

の職員を有しております。

患者中心主義のもと、安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度な医療水準を維持することを理念としております。

当院では JCI やがん診療連携拠点病院など様々な認証を取得しております。

スライド 3



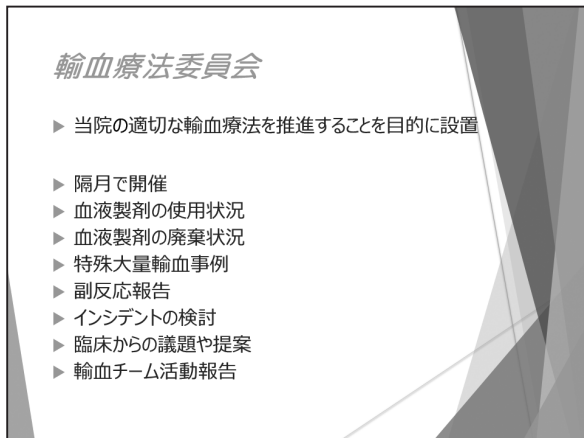
当院の輸血体制としまして、輸血療法委員会や輸血に精通した専門家の設置、そして今回、お話しします輸血チーム活動などがあります。順に説明させていただきます。

スライド 2



まず、当院の紹介をさせていただきます。埼玉医科大学国際医療センターは、2007年に開設しまして700床の病床、38科の診療科、1,700名

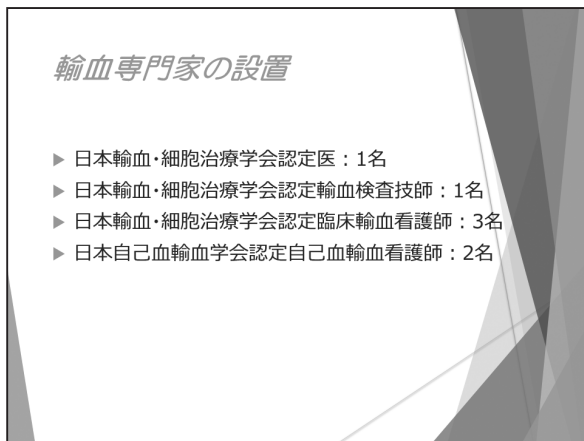
スライド 4



まず、輸血療法委員会は隔月で開催され、当院の適切な輸血療法を推進することを目的に行われております。

議事内容としては、血液製剤の使用状況や廃棄状況や特殊大量輸血事例、副反応報告、輸血関連のインシデントの検討、臨床からの議題や提案、輸血チーム活動報告などがあります。

スライド 5

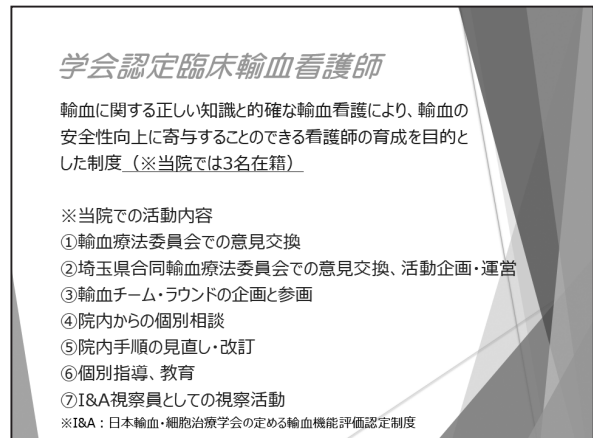


次に、輸血専門家の設置についてです。

輸血療法委員は、医師や他職種などで構成されております。

輸血学会認定医が 1 名、輸血学会認定輸血検査技師が 1 名、学会認定臨床輸血看護師が私を含めて 3 名、学会認定自己血輸血看護師が私を含めて 2 名在籍しております。

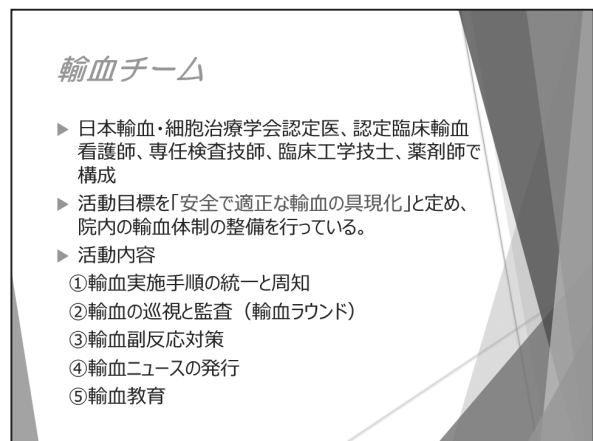
スライド 6



学会認定臨床輸血看護師は、輸血に関する正しい知識と的確な輸血看護により、輸血の安全性向上に寄与することのできる看護師の育成を目的とした制度です。

当院での活動内容は、輸血療法委員会での意見交換、埼玉県合同輸血療法委員会での意見交換や活動企画と運営、輸血チーム・ラウンドの企画と参画、院内の様々な部署からの個別相談、院内手順の見直しや改訂、個別指導と教育、I&A 視察員としての視察活動などがあります。

スライド 7

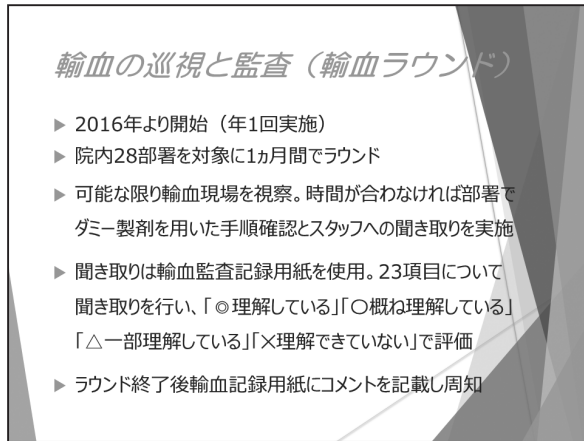


次に輸血チームです。こちらは、当院のチームで 2015 年輸血療法委員会の下部組織として輸血チームを発足いたしました。認定スタッフ以外に他職種も含めて構成されています。

活動目標を「安全で適正な輸血の具現化」と定め院内の輸血体制の整備をしております。

活動内容は、輸血実施手順の統一と周知、輸血の巡視と監査、輸血副反应对策、輸血ニュースの発行、輸血の教育をしております。

スライド 8

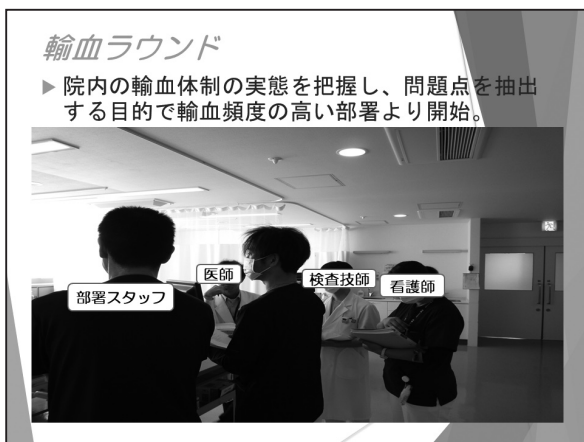


巡視活動の取り組みとして2016年から輸血ラウンドを開始しております。院内28部署を対象に1か月程度でラウンドしております。

ラウンドは、可能な限り輸血現場を視察したいと考えておりますが、時間が合わなければダミー製剤を用いた手順の確認とスタッフへの聞き取りを実施しております。

聞き取りは輸血監査記録用紙を使用しており、質問事項は23項目4段階で聞き取りを行い評価しています。ラウンド終了後、輸血記録用紙にコメントを記載し対象部署へ周知しています。

スライド 9



これは実際のラウンドの様子です。チームで訪

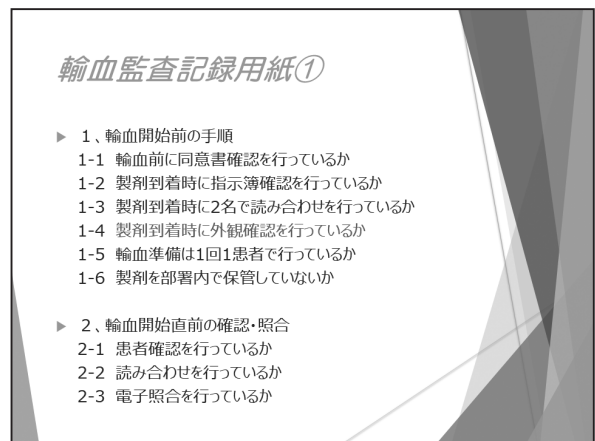
問し医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師等が院内の輸血体制の実態を把握し問題点を抽出し、必要に応じてそれぞれの立場から助言しております。

スライド 10



こちらもラウンドの様子です。実際、訪問時に輸血が行われていなければ聞き取りを中心にラウンドをしております。

スライド 11

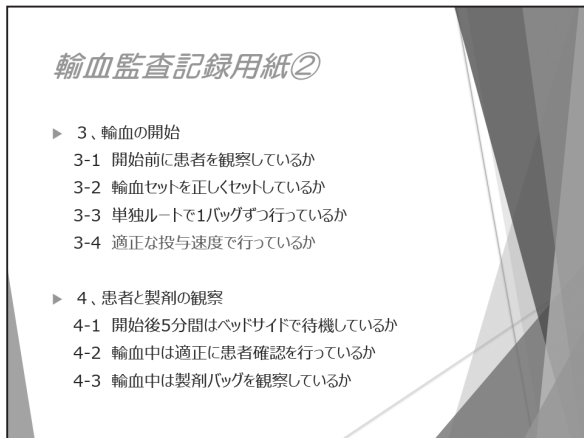


輸血監査記録用紙の聞き取り項目になります。輸血開始前から終了までの一連の流れについてチェック項目を設定しております。

赤でお示ししている項目については、当院で理解度が低い項目です。外観確認については赤血球製剤の色調異常や血小板製剤のスワーリング等の理解度が低いことが分かりました。

また、開始直前確認として患者確認や読み合わせが行われているかの確認もしております。

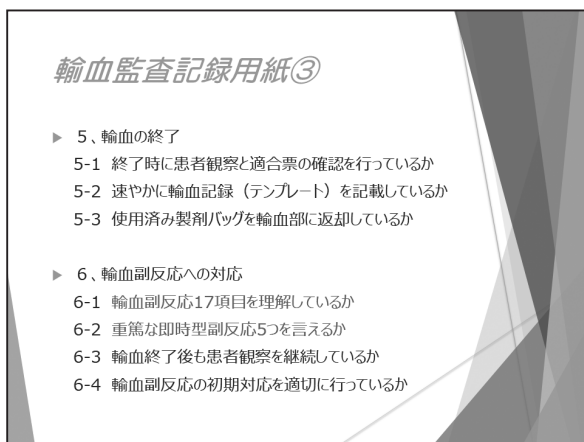
スライド 12



監査記録用紙のチェック項目は、ガイドラインやI & Aの機能評価の視察項目を参考にしております。

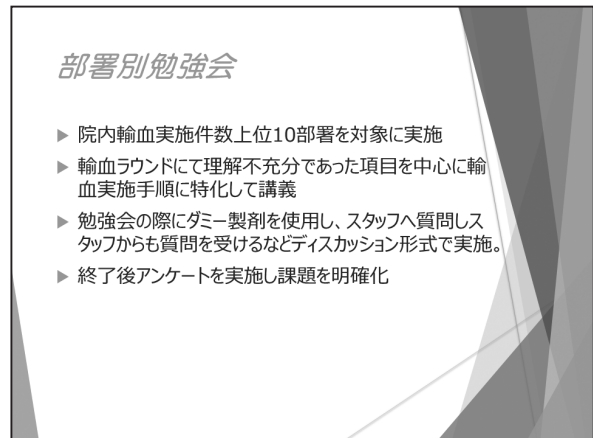
開始時は適正な投与速度の理解度が低いことが分かりました。その他のチェック項目として、投与の流れや患者観察等があります。

スライド 13



こちらは、輸血終了時の観察や輸血副反応への対応です。輸血副反応17項目を全て答えられるスタッフはおりませんでした。また、重篤な即時型副反応5つについては急性肺障害や循環過負荷等の理解度が低いといった結果でした。

スライド 14



輸血ラウンドは、その輸血部署が把握できるというメリットの半面、特定のスタッフのみの教育になってしまうデメリットもあります。

このデメリットを少しでも解消するため部署別勉強会を行っております。院内輸血実施件数上位10部署を対象に実施しました。

主に輸血ラウンドにて理解不十分であった項目を中心に輸血実施手順に特化して講義しております。

勉強会は、座学だけでなく、ダミー製剤を使用し、スタッフへ質問しスタッフからの質問を受けるなどディスカッション形式で実施しました。

勉強会終了後、アンケートを実施し課題を明確化しております。

スライド 15

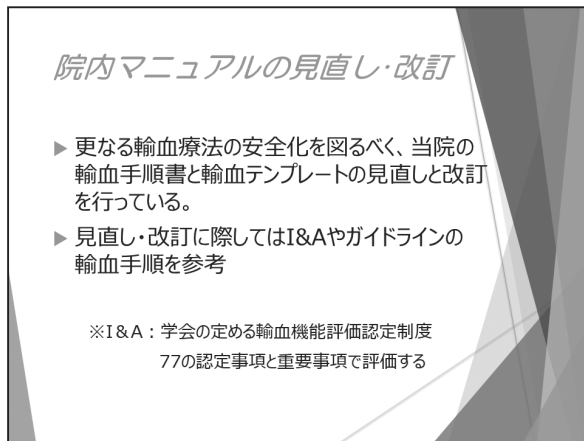


また、活動の一環として「輸血ニュース」を作成して全部署に配布しております。

テーマは、主に輸血ラウンドで理解度の低かった項目を中心に設定しており、紙面上でも承知を図ることを目的としています。

スライドで示しておりますのは、血液製剤の外観確認をテーマとしたものです。

スライド 16



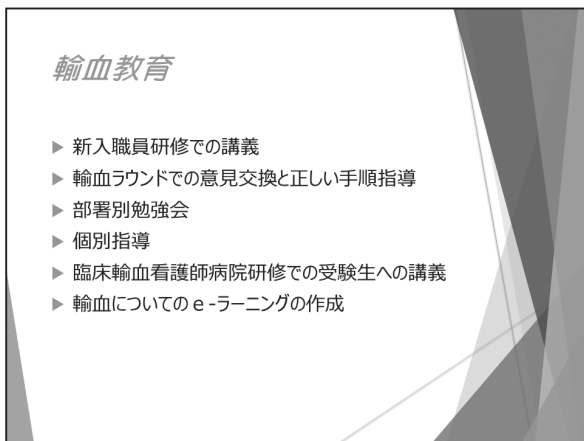
院内マニュアルの見直し・改訂

- ▶ 更なる輸血療法の安全化を図るべく、当院の輸血手順書と輸血テンプレートの見直しと改訂を行っている。
- ▶ 見直し・改訂に際してはI&Aやガイドラインの輸血手順を参考

※I&A：学会の定める輸血機能評価認定制度 77の認定事項と重要事項で評価する

また定期的に院内マニュアルの見直し、必要に応じてマニュアルの改訂をしております。

スライド 17



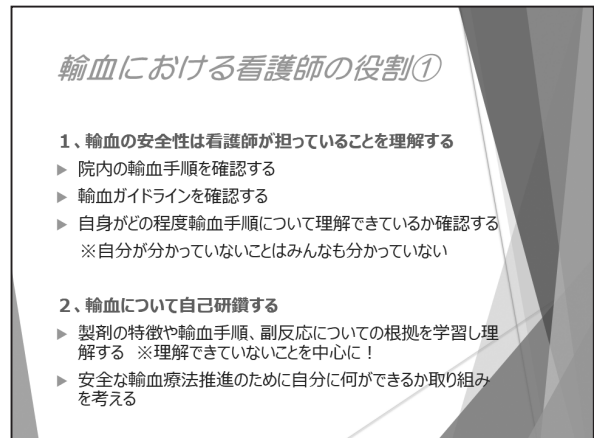
輸血教育

- ▶ 新入職員研修での講義
- ▶ 輸血ラウンドでの意見交換と正しい手順指導
- ▶ 部署別勉強会
- ▶ 個別指導
- ▶ 臨床輸血看護師病院研修での受験生への講義
- ▶ 輸血についてのe-ラーニングの作成

輸血教育は様々なシチュエーションで行われております。受講者の経験年数や所属部署の特性に合わせた内容で行っております。主に輸血手順や製剤投与時の注意点、副反応等について講義をしております。

当院は、学会認定臨床輸血看護師実習施設にもなっているため、臨床輸血看護師病院研修での受験生への講義、実習も担当しております。

スライド 18



輸血における看護師の役割①

- 1、輸血の安全性は看護師が担っていることを理解する
 - ▶ 院内の輸血手順を確認する
 - ▶ 輸血ガイドラインを確認する
 - ▶ 自身がどの程度輸血手順について理解できているか確認する
 - ※自分が分かっていないことはみんなも分かっていない
- 2、輸血について自己研鑽する
 - ▶ 製剤の特徴や輸血手順、副反応についての根拠を学習し理解する ※理解できていないことを中心に！
 - ▶ 安全な輸血療法推進のために自分に何ができるか取り組みを考える

今までの活動を通じて感じた輸血における看護師の役割について、お話をさせていただきたいと思います。

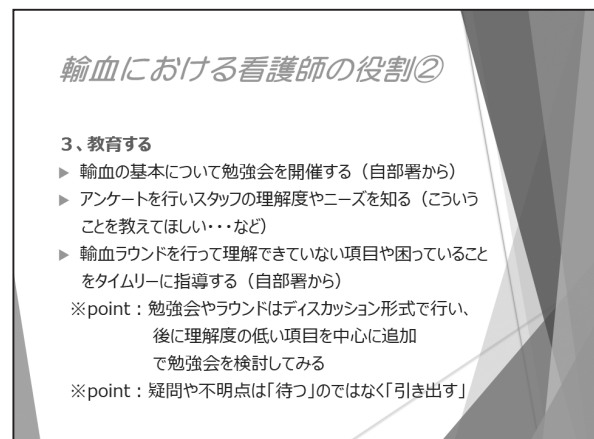
まず、適正で安全な輸血を行うためには、看護師の必要性は不可欠であると考えております。そのためには、輸血の知識が必要不可欠と考えております。

まず、自身の施設部署の輸血マニュアルやガイドラインをご確認いただければと思っています。

その上で手順や流れをどれくらい理解できているのか知ることが重要だと考えております。

次に自己研鑽については、理解できていないことを中心に学習して、知識を基に安全な輸血を行うためには何をすべきか考える必要があるのではないかと考えております。

スライド 19



輸血における看護師の役割②

- 3、教育する
 - ▶ 輸血の基本について勉強会を開催する（自部署から）
 - ▶ アンケートを行いスタッフの理解度やニーズを知る（こういうことを教えてほしい・・・など）
 - ▶ 輸血ラウンドを行って理解できていない項目や困っていることをタイムリーに指導する（自部署から）
 - ※point：勉強会やラウンドはディスカッション形式で行い、後に理解度の低い項目を中心に追加で勉強会を検討してみる
 - ※point：疑問や不明点は「待つ」のではなく「引き出す」

次に教育です。教育するうえで勉強会は一つの

手段となります。

まず、自部署から輸血の基本について勉強会を開催することも良いかと考えております。人に教えるということは、知っていることを言語化して伝達するため自分自身にとっても知識が整理されて理解が深まると考えております。

また、勉強会終了時には、理解度を知るためにアンケートは必須と考えておりますが、他に知りたいことをその場で聞いてみることもよいと思います。

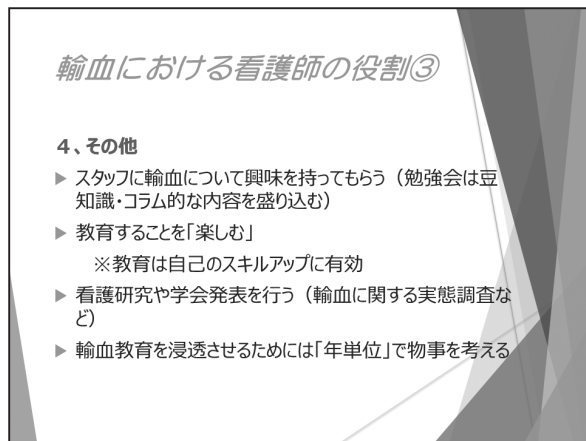
また、輸血ラウンドは、施設全体を個人で行うのは敷居が高いと思いますので、まず、ご自身の所属されている部署から行うのもよいと感じております。

勉強会やラウンドについて一方的な指導というよりは、ディスカッションを交えるなどの工夫で場が和み、楽しくできることもあります。

後に理解度の低い項目を中心にレクチャーする機会を持つのもよいと思っております。

また、勉強会後の疑問や不明点は、「待つ」のではなく、場面をしばったり、質問をしながら「引き出す」形が重要と考えております。

スライド 20



輸血における看護師の役割③

4. その他

- ▶ スタッフに輸血について興味を持ってもらう（勉強会は豆知識・コラム的な内容を盛り込む）
- ▶ 教育することを「楽しむ」
 - ※教育は自己のスキルアップに有効
- ▶ 看護研究や学会発表を行う（輸血に関する実態調査など）
- ▶ 輸血教育を浸透させるためには「年単位」で物事を考える

勉強会は、豆知識的な内容を織り交ぜるとスタッフの興味を引き出せる場合があると思いますので、例えば血液は何で赤いの？とか色々織り交ぜるとスタッフに耳を傾けていただける場合が多いです。

コラム的な内容も組み込むことで輸血教育に興味を持ち、更なるモチベーションの向上にも繋げ

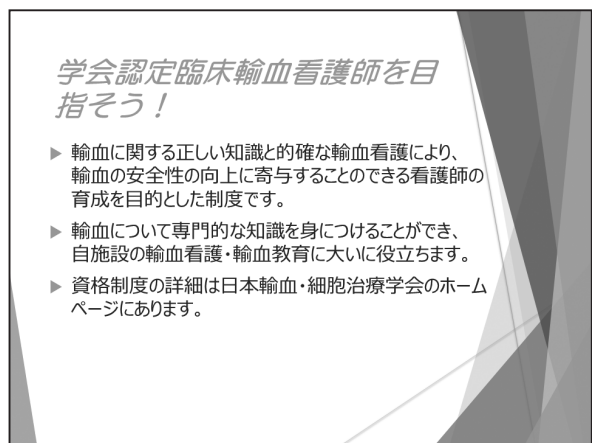
られるのではないかと思います。

また部署単位、施設単位で輸血に関する現状や問題点を調べて、看護研究等、学会発表などをしてみることも安全な輸血意識向上の一つの方法になると考えております。

看護師に求められるのは安全で適正な輸血を行うためのスキルだと考えております。そのためには自己学習とスタッフの教育は車の両輪であると考えます。

ただこういったものは、時間をかけて醸成されるものではないかと考えておりますので、長いスパンで考えてみるのもよいと思います。

スライド 21



学会認定臨床輸血看護師を目指そう！

- ▶ 輸血に関する正しい知識と的確な輸血看護により、輸血の安全性の向上に寄与することのできる看護師の育成を目的とした制度です。
- ▶ 輸血について専門的な知識を身につけることができ、自施設の輸血看護・輸血教育に大いに役立ちます。
- ▶ 資格制度の詳細は日本輸血・細胞治療学会のホームページにあります。

最後になりますが、学会認定臨床輸血看護師についてお話しします。

輸血に関する正しい知識と的確な輸血看護により、輸血の安全性の向上に寄与することのできる看護師の育成を目的とした制度です。

私自身も資格を有しておりますが、輸血について専門的な知識を身につけることができ、施設の輸血看護や輸血教育に役立っております。

資格制度の詳細は、日本輸血・細胞治療学会のホームページに掲載されておりますので、皆さんも是非ご検討いただければと思っております。

是非、前向きに考えていただければと思っております。

スライド 22



話は、以上になります。

今回の話が聴講者様にとって少しでも参考になれば幸いに思います。

ご清聴ありがとうございました。

質 疑 応 答

- 木村座長 ありがとうございました。輸血ラウンドの実際の活動を織り交ぜながら話され、非常にわかりやすい内容と思います。ご質問がある方はチャットにて入力をお願いいたします。溝口先生から先ほどの樋口先生の講演に対して、HEVの頻度はどうですか。という質問が来ています。今、資料をいただきましたので私がかわりに回答いたします。輸血後のHEVの感染確定例は、2017年～2020年の間に4～7例くらいあったということです。
- それでは、私の方から質問させてください。輸血チームを作るきっかけや誰がリーダーシップをとりチームをまとめているのか教えていただければと思います。
- 小林さん ご質問ありがとうございます。私が輸血に興味を持ち始めたのは資格の存在が大きく、勉強していく中で段々面白さが増してきました。次に自分の知識を生かしたいと考えましたが中々一歩を踏みだせずにいるところ輸血部長の石田先生からアドバイスをいただき、活動を勧めていただいたのがきっかけです。当然、何人かの構成員が必要ですので、そういった方々と色々お話をしていく中で、様々な案や企画が出てきて活動の場も広がって来ました。
- 木村座長 いろんな職種や立場の方が集まることによって、化学反応が起き良い方法に向かっているということですね。
- 時間になりましたので、このセッションは終了といたします。
- ありがとうございました。